

評価結果概要表

【評価実施概要】 作成日 平成21年3月10日

事業所番号	2772403263	評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
法人名	有限会社 杉の里	所在地	大阪市東住吉区山坂5丁目5番14-103号
事業所名	グループホーム 杉の里	評価調査日	平成 21 年 3 月 7 日
所在地	枚方市 大字 杉4607 電話 072-896-2212	評価確定日	平成 21 年 3 月 12 日

【情報提供票より】 (平成21年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数 18人
職員数	16人 常勤 9人 非常勤 7人 常勤換算 6, 9人

(2) 建物概要

建物の構造	軽量鉄骨2階建 2階建ての(1階~2階部分)
-------	---------------------------

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	55,000円	その他の経費 (月額)	35,000円
敷金	無 ()		
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有 300,000円 20万円償却 10万円修繕費残返却		
食材料費	朝食	300円	昼食 600円
	夕食	600円	おやつ 円
	または1月当たり 45,000円		

(4) 利用者の概要 (2月28日現在)

利用者人数	13名	男性	3名	女性	10名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢 平均	83.3	最低	66才	最高	90才

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しらかばホール診療所 津田病院 西田歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

開設から3年目を迎え、利用者は毎日を明るく、温かな見守りの中で過ごしている。所内では、運営者をはじめ当初からの職員に加え、新入の職員との協力により、温かい気付きの介護が行われている。特に、運営者が職員の継続勤務のために、種々、配慮をしているのが特徴である

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4) 運営者は、地元自治会の会議等に出席して交流を図っているが、ホームが歴史のある集落から少し離れた場所に立地しているため、日常の対話は難しいが、絶ゆまぬ努力を続けている。又、開設から3年で、終末期の看取りはないが、ご家族との合意書は出来ている。災害時の避難訓練については職員のみで、利用者に配慮して日常生活の中で実施している、近隣の方々との交流はまだ出来ていないが、今後の努力を期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 運営者、管理者、計画作成者によって原案を作成し、職員との協議を重ねた上で作成している。更に、介護は経験の深い職員の指導のもとに、利用者の能力を活かすように配慮し、注意深く実施している。又、地理的環境からも職員の採用が難点となっており、運営者、管理者は職員の継続に最大限の気遣いを行っている
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、ご家族代表や地域の福祉関係者も出席しているが、主な内容はホームの運営状況や行事報告も含め、説明と質疑応答が行われている。これからも、地元との交流は、この会議を介して積極的に展開することを期待したい
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) ご家族代表の運営推進会議への出席もあり、特に問題点等はなかったが、自由な質疑応答があり、対処できることは、即、改善を行っている
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 地理的環境と、歴史ある集落の地域の方々との交流は一朝一夕には無理なので、長い目で徐々に進められることを期待したい

（ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
1 理念と共有					
	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に生きる」を基本の理念として、日々の介護を進めている		
	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月、定例の職員会議を開催し、理念の実践に向けて、一致を図っている	○	申し送りの場所に、経営理念と、理念の分かり易い実践項目を掲げ、職員への日常の指針として指導して欲しい
2 地域との支えあい					
	3	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	地理的環境から、地元の方々と交流には、長い期間をかけて徐々に進めざるを得ないが、継続して努力している		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者を始め職員は、外部評価の意義を理解して、今回の評価に取り組んできた		
	5	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議が開催され、情報交換や状況説明が行われている。ご家族代表からも、提案や質問等を伺い、改善に活かしている		
	6	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のご担当部署へは、機会ある毎に訪問して、情報交流をしている		
4 理念を実践するための体制					
	7	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	毎月の書類発送に、情報報告を兼ねたホーム便りを発送したり、電話による状況説明等をしている		
	8	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ご家族代表の出席を頂いている。又、ご家族の来訪時には、計画作成者も説明に当たっている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9 18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者の不安を少なくするように、職員の配置を考慮している。更に、運営者は、基本的に離職者を出来るだけ出さないように、処遇の改善に努めている		

5 人材の育成と支援

	10 19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の研修への参加を勧めており、また、職員は自主的に資格取得の努力をしている	○	職員毎に必要な研修項目を把握して、洩れなくレベルアップを進めて欲しい。新入の職員には、オリエンテーションの教育(計画作成のこと)を先行して、職場への参加を望みたい
	11 20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている	包括センターの支援により、他の事業所との交流が行われ、情報の交流も出来ている		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12 26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用問い合わせの段階から、自宅訪問も含め、本人、ご家族との話し合いを重ねおり、その上で、納得して入所して頂けるようにしている		
--	-------	---	--	--	--

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13 27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	新しい利用者へは職員と一緒に付き添って、早く日常生活に馴染んで頂けるように介助し、その上で生活暦等の把握に努めている。職員が観察したことを記録し、職員の共通情報として利用している		
--	-------	---	---	--	--

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

	14 33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買物、外出の希望も含めて、表情からも汲み取り、本人の意向に沿うようにしている		
--	-------	---	--	--	--

2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15 36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の言動の変化によって計画変更の必要を認めた場合には、職員の情報交換の席上で検討し、新計画に活かしている		
--	-------	--	--	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の変化に応じて職員のモニタリング結果、或いは、本人の観察した記録、関係者との話し合いで、計画変更をしている		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、ご家族の要望により、事業所の介護に差し支えない範囲で支援をしている		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	協力診療所の医師によって、週1回の往診を頂いている		
19	47	○ 重度化や週末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、本人、ご家族に、入所時の説明で納得して頂き、合意書を交わしている	○	開設から3年目になるので本人、ご家族との合意書はあるが、職員の終末期の対応については、共有情報として準備しておいて欲しい
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	運営者は、職員にプライバシーの確保、尊厳性、記録の書き方も含めて指導をしている		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の生活については、職員に仕事中心ではなく、一人ひとりのペースに合わせるように指導している		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はすべて手作りとなっており、利用者の好みに合わせている。又、利用者に来る範囲内で食事の手伝いをしてもらっている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	23	57	<p>○ 入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

	24	59	<p>○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
	25	61	<p>○ 日常的な外出支援</p> <p>事業所の中で過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している</p>		

(4) 安心と安全を支える支援

	26	66	<p>○ 鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
	27	71	<p>○ 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	緊急避難について、年1回は消防署と相談、指導を受けて欲しい

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

	28	77	<p>○ 栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
--	----	----	---	--	--

2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

	29	81	<p>○ 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
	30	83	<p>○ 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		